

平成 27 年 2 月 27 日

芦屋市長 山中 健 様

芦屋市立美術博物館 指定管理者

小学館集英社プロダクション共同体

代表者 株式会社 小学館集英社プロダクション

住所 東京都千代田区神田神保町 2-30 階

代表取締役社長 紀伊 高明

平成 27 年度 事業計画書について

別紙添付書類の通り、芦屋市立美術博物館の平成 27 年度 事業計画書を提出いたします。

平成 27 年 3 月 1 日

芦屋市立美術博物館
平成 27 年度 事業計画書

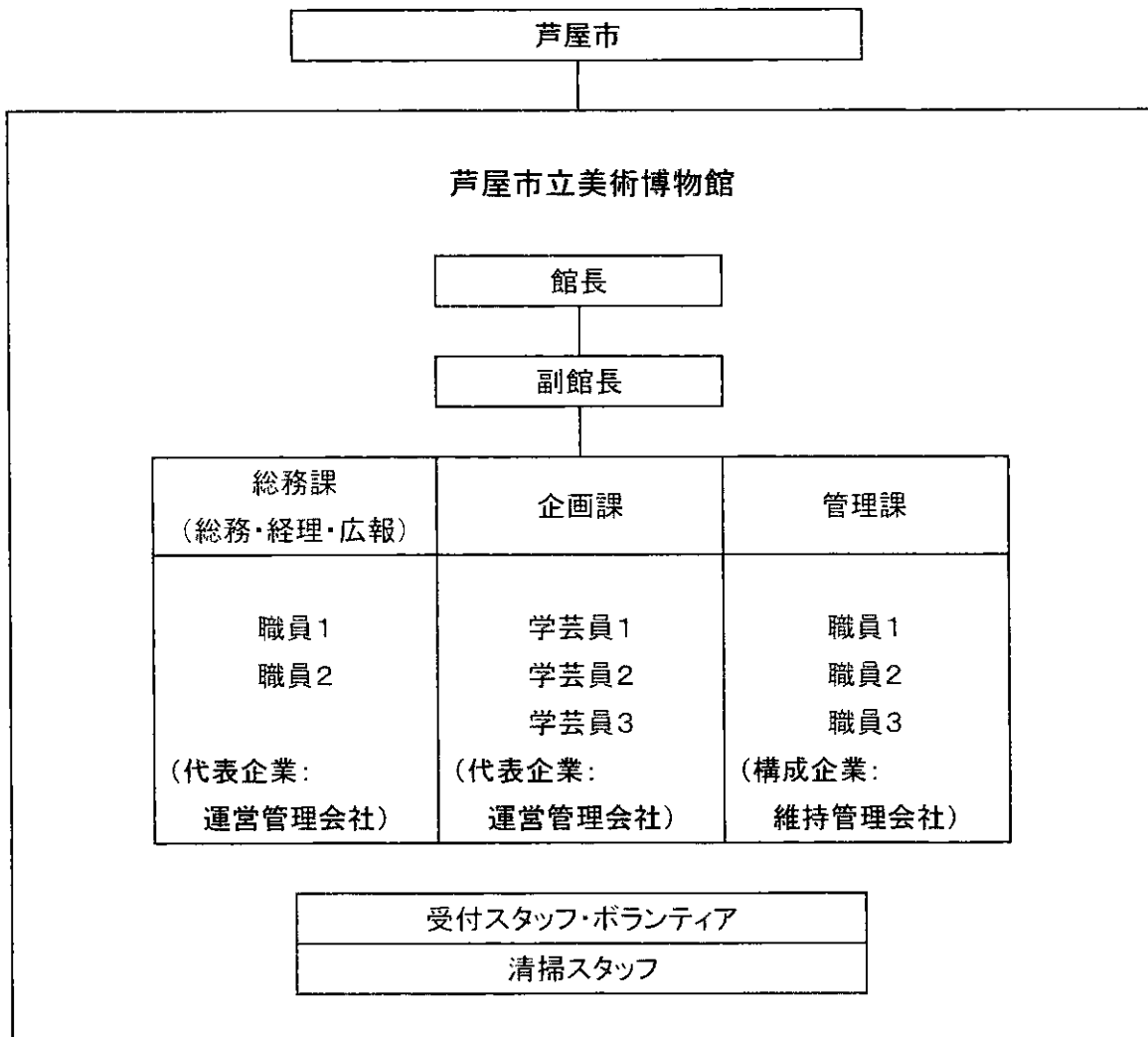
(指定管理者)

小学館集英社プロダクション共同体

1. 指定管理者の概要

| | |
|--------|---|
| 指定管理者名 | 小学館集英社プロダクション共同体 |
| 代表者名 | 株式会社 小学館集英社プロダクション 代表取締役社長 紀伊 高明 |
| 所在地 | 本 社：東京都千代田区神田神保町2-30 昭和ビル 関西支社：大阪市中央区淡路町4-4-11 アーバネックス淡路町ビル2階 |
| 電話番号 | 本 社：03-3515-9110 (代表) 関西支社：06-6206-0045 (社会教育課) |
| FAX番号 | 関西支社：06-6206-0041 |
| 担当 | 運営管理：株式会社小学館集英社プロダクション 維持管理：グローバルコミュニティ株式会社 |

2. 組織体制



3. 施設職員体制

| | | |
|----------------------------------|-------------|--|
| 施設職員 | 館長 | : 1名 (非常勤) |
| | 副館長 兼 事務局長 | : 1名 |
| | 総務課 | : 2名 |
| | 企画課 (学芸員) | : 3名 (美術2名、歴史1名) |
| | 管理課 (防火管理者) | : のべ1名 (非常勤職員3名) |
| ※ その他展覧会受付スタッフ、ボランティアは展覧会等に併せて配置 | | |
| 事務分掌 | 館長 | : 館全体の総責任者 |
| | 副館長 | : 運営・管理に関する統括責任者 (※事務局長: 芦屋市との報告・連絡) |
| | 総務課 | : 総務事務、経理、各種申請書管理、広報活動 他 |
| | 企画課 | : 展覧会・教育普及事業の企画・実施、作品の保存 調査・研究、各種広報物の作成 他 |
| | 管理課 | : 施設、設備の維持管理、危機管理 |

4. 芦屋市立美術博物館 運営基本方針

美術博物館の設置目的・使命に基づいて、下記の項目に沿った管理運営を行います。

- ① 市・市民・利用者と協働して美術博物館の運営を担い、常にレベルアップした運営に取り組めます。
- ② 多くの市民・利用者に来館いただけるよう、公平平等に配慮した施設有効利用を図ります。
- ③ 関連する法令・法規、個人情報の保護、守秘義務の遵守と、環境への配慮に努めます。
- ④ 利用者の安心・安全を第一に考え、危機管理対策に努めます。
- ⑤ 無駄な経費は運営努力により縮減し、健全で継続的な運営サイクルの構築に努めます。
- ⑥ 3年間(1期目)の運営実績と当グループのノウハウを最大限に利用し、利用者の拡大に挑戦し続けます。

5. 利用料金

利用料金は、条例に沿った下記の料金設定を据え置きとします。

① 観覧料

| 区分 | 個人 | 団代（20人以上） | 特別展示観覧料 |
|---------|------|-----------|------------------------------|
| 一般 | 300円 | 240円 | 2,000円の範囲内において教育委員会がその都度定める額 |
| 大学生・高校生 | 200円 | 160円 | |
| 中学生以下 | 無料 | | |

② 特別観覧料

| 区分 | | 特別観覧料（1点1日につき） | |
|--------|--------|----------------|--------|
| 観覧 | | 300円 | |
| 模写、模造等 | | 500円 | |
| 撮影 | モノクローム | 学術研究を目的とする場合 | 200円 |
| | | 出版等の収入が伴う場合 | 1,000円 |
| | カラー | 学術研究を目的とする場合 | 400円 |
| | | 出版等の収入が伴う場合 | 2,000円 |

③ 施設使用料

| 区分 | 使用料 | | |
|-------|-----------------|-------------------------|--------------------------|
| | 午前10時から 正午まで | 午後1時から 午後4時30分 まで | 午前10時から 午後4時30分 まで |
| 講義室 | 2,800円 | 4,300円 | 7,100円 |
| 体験学習室 | 4,100円 | 6,700円 | 10,800円 |

④ 駐車場使用料

| 時間 | 料金 |
|-----------|----------|
| 1時間以内 | 無料 |
| 1時間を越えた場合 | 100円/30分 |

6. 展覧会予定（別途年間予定表を添付）

平成 26 年度につきましては、「浮世絵」展の 2 回目として、「世界を魅了したやまとなでしこー浮世絵美人帖」を開催し、「具体」の国際性に焦点をあてた「GUTAI×INTERNATIONAL 具体、海を渡る。」では、当館ならではの貴重なコレクション研究をより深化させ、新たな「具体」像を市民にわかりやすく伝える展覧会を開催しました。

また「art trip vol.1 窓の外、恋の旅/風景と表現」では、映像や写真、そして、谷川俊太郎の詩を取り上げ、日常と美術の関わり方をテーマとし、「土器どき芦屋の物語ー遺跡が語る芦屋の歴史」は、はじめて芦屋市の発掘調査の歴史をたどりました。

平成 27 年度は、多くの市民が来館される「芦屋市展」を、12 月実施から 4 月実施に変更した上で会期も延長し、来館者増を図ります。5 月は、阪神電鉄株式会社、阪神間の美術館・博物館との共催で、「阪神沿線の文化 110 年」展を開催します。外部との連携を最大限に活かし、歴史ある阪神間、そして芦屋の文化について焦点を当て、個性ある阪神間の魅力を紹介する展覧会に挑戦し、芦屋市ならびに当館の魅力を広く、多くの来館者に感じていただける充実した展覧会を予定しております。

8 月からは、「浮世絵展」の第三弾として、「浮世絵恋物語」を、他館のご協力のもとで開催し、また新たな浮世絵の魅力を紹介します。

そして 11 月より、「戦後のボーダレス/前衛陶芸の貌」と題し、前衛陶芸の深化の過程に迫ります。最後に、本年度、33 回を迎える「造形教育」展が 2 月より開催予定です。

具体的な内容は、下記の通りです。

※展覧会名称は変更する場合があります。

【第一展示室/第二展示室】

◇4 月 4 日（土）～5 月 10 日（日） 32 日間

第 63 回 芦屋市展

芦屋市展は、「何人も随意に応募する事ができます」という自由さが特色の公募展として、1948 年に第 1 回展が開催されて以来、本展は今年で 63 回目となります。今回は、より多くの皆様に見ていただくため、12 月実施から 4 月、5 月に期間を変更しました。5 月の連休にもたくさんの来館者を見込んでいます。本年も多くの皆様に親しみを持っていただける公募展を目指します。

前回は引き続き、会期中に来場者の投票で選ぶ「オーディエンス賞」も設けます。

【第一展示室/第二展示室】

◇5月23日（土）から8月2日（日） 62日間

阪神沿線の文化110年 モダンアートクロニクル- アート、ファッション、建物から辿る芦屋の芸術 展

阪神地域には、東に大阪、西に神戸という大都市が位置しています。その背景に六甲山、日の前には大阪湾が広がる風光明媚な土地柄としても知られています。戦前から沿線開発やレジャーランド開発などによりモダニズムの気風が根付き、開放的で進取の気性に富んだ街・人・文化が生まれました。

このような阪神間の歴史と文化を生んだ背景には、阪神電鉄の沿線開発によるところが大きいといえます。海と山、商業都市・大阪と国際デザイン都市・神戸を結ぶ阪神電鉄。その阪神沿線に位置する芦屋市谷崎潤一郎記念館、BBプラザ美術館、尼崎市総合文化センター、芦屋市立美術博物館、西宮市大谷記念美術館、白鹿記念酒造博物館、西宮市立郷土博物館が連携し、阪神電気鉄道株式会社とともに、阪神沿線の歴史や都市環境、文学、美術、建築、大衆文化、産業などの関連資料を展示し、個性ある阪神間の魅力を紹介します。

阪神地区は畿内に位置し、古代から恵まれた風土が育んだ多くの文化遺産を有し、関西ベイエリアの中核を担う地域として重視されています。

本展が、110年に及ぶ、阪神沿線の歴史文化の軌跡を検証し、21世紀の快適な都市環境を創る上で、阪神沿線の今後の可能性を考える機会になればと希っています。

当館では、下記の内容の展覧会を予定しています。

「芦屋は、明治以降の鉄道の開通とともに急速に発展、阪神間を代表する健康地として注目され、近代都市で働く人々の理想的な住宅地として人気を博しました。本展では、近代化が進んだ明治以降の芦屋のライフスタイルを、建築、文芸、生活に関する資料等から紹介し、鉄道開通以前の牧歌的な光景から文化的景観が形成されるまでの芦屋の歴史を辿ります。そして、芦屋ゆかりの画家、小出楯重、上山二郎、長谷川三郎、伊藤継郎、福田眉仙、吉原治良の他、新興写真運動の先駆けとなった芦屋カメラクラブ、戦後の日本を代表する前衛美術グループ「具体美術協会」を紹介し、風光明媚な芦屋が育んだ芸術と文化に触れていただきます。

【第一展示室/第二展示室/歴史展示室】

◇8月12日(水)～11月15日(土) 83日間

恋物語は突然に～浮世絵のなかの美男・美女 展

“偶像”のように理想化された人物像は洋の東西を問わず、いつの時代にも絵画化されています。江戸時代美術を代表する浮世絵版画には、当時の人々が好んだ風貌の人物が数多く描かれ、庶民から貴族や姫君に至るまで幅広い人物が題材とされます。

中でも、歌舞伎役者や町の美女たちが描かれた役者絵、美人画はまさに当世美意識の結晶です。そのような美男・美女が紡ぎだす恋物語は江戸時代文化を物語るもので、当時流行した「心中物」や「仇討ち物」には複雑な男女の恋愛が盛り込まれています。

本展では、物語や歴史、伝説に取材した浮世絵版画に見られる美男・美女の姿から、江戸時代当時の人間美、さらには恋愛事情まで読み解きたいと思います。

【第一展示室/第二展示室】

◇11月28日(土)～2月7日(日) 56日間

戦後のポータレス/前衛陶芸の貌(かお) 展

戦後、「オブジェ陶」といわれる前衛的なやきものが生まれました。これらの作品は、それまでのやきものに対して多く使われた「用の美」という言葉から一線を画した、土を素材とする新たな造形表現とすることができます。

本展は陶芸界にとどまらない多様な交流の分析を通じ、前衛陶芸の深化の過程に迫ろうというものです。前衛陶芸の立場から戦後の表現を探ります。

【第一展示室/第二展示室】

◇2月20日(土)～2月28日(日) 8日間

第33回 芦屋市造形教育 展

市内の幼稚園・小学校・中学校の生徒の作品を全館にわたり展示します。

主催：芦屋市教育委員会

芦屋市造形教育研究会

【歴史資料展示室】

◇4月4日（土）～5月10日（日）32日間

芦屋の歴史と文化財～祈りをささげた神様仏様 展

古代から近代に至るまでの芦屋の歴史を巡る「芦屋の歴史と文化財」展。
本年度は芦屋の寺社の歴史を物語る資料も併せて特集展示としてご紹介します。

【歴史資料展示室】

◇11月28日（土）～2月28日（日）64日間

昔の暮らしー江戸時代ってどんな時代？ 展

昔の人々のくらしぶりをご紹介する「昔の暮らし」展。本年度は特に江戸時代の人々の生活に注目をします。武士や農民、商人、職人たち「士・農・工・商」それぞれの暮らしぶりから、江戸時代の文化とはどのようなものかご覧いただけます。併せて当時の芦屋の歴史に関する資料も展示することで、街道が通る江戸時代の芦屋の牧歌的な光景をご紹介します。

7. 講座・イベント等の予定（教育普及事業）

ーアートスタディプログラム 2015 「Bihaku Room / びはくルーム」を中心にー

平成26年度よりスタートした教育普及事業「びはくルーム」を引き続き本年度も実施します。前年度は、こどもからおとなまで幅広い年齢層の方々がお越しください、7事業延べ256名（3月22日の開催イベント参加数除く）の皆様にご参加いただきました。

美術を楽しみながら学ぶ面白さを感じていただけたら幸いです。参加者の皆様の中には、初めて来館されたという10代、20代の方々が多数参加していただき、新しい来館者層の獲得と当館の広報にもなりました。また、複数回参加された方もおり、リピーター層も拡大することができました。

本年度は内容の充実を図り、事業数を10事業に拡充し、美術を楽しみながら「学ぶ」場として様々なイベントを開催し、より多くの美術ファン層を獲得するとともに、当館を身近な場所として感じていただく機会を提供します。

また、本年度は、ワークショップやフィールドワーク、アートトークなどのイベントを8事業、館外で行うワークショップを1事業行う他、3月には全館を利用して行う「美術」と「音楽」のイベントを行います。

* 「びはくルーム」スケジュール（全て予定）

| | |
|----|--|
| 4月 | ワークショップ「MARK IN THE CITY」 |
| 会場 | 芦屋市内、当館講義室 |
| 講師 | 山内庸資（美術家、イラストレーター） |
| 対象 | どなたでも（但し、小学生以下は保護者同伴） |
| 定員 | 20名 |
| 内容 | お店やブランドマークなどのロゴも製作しているイラストレーターの山内庸資さんと一緒にフィールドリサーチを行い、芦屋のシンボルマークを考えて缶バッジを作ります。ランチタイムはVolver(ボルベール 京都大原で有機野菜づくり。旬の食材のおいしさを引き出す料理を作る)のお弁当を公園で食べて楽しい時間を過ごします。 |

| | |
|----|--|
| 6月 | アートおしゃべり「swing-by」 |
| 会場 | 当館講義室 OR お庭 |
| 講師 | 伊達伸明（美術家）、ニシジマ・アツシ（サウンドアーティスト） 安河内宏法（京都工芸繊維大学美術工芸資料館特任助教） |
| 対象 | どなたでも |
| 定員 | 60名 |
| 内容 | 講師によるトーク |

| | |
|---------|--|
| 8月（二日間） | ワークショップ「あなたがモデルーキメキメファッションフォト」 |
| 会場 | 当館講義室 |
| 講師 | 浅田 政志（写真家） |
| 対象 | 小・中・高 |
| 定員 | 25名 |
| 内容 | 勝負服（一張羅、お気に入りの服）を着て、写真家の浅田政志さんに撮影してもらいます。写真とあなたのきめ台詞でポスターを作り展示します。 |

| | |
|----|--|
| 8月 | ワークショップ 「光る彫刻を作ろう」 |
| 会場 | 当館体験学習室、講義室 |
| 講師 | 森 太三（美術家） |
| 対象 | どなたでも |
| 定員 | 40名 |
| 内容 | セロテープで作るランタンを木片の台座と組み合わせて「光る彫刻」を制作します。 |

| | |
|-----|--|
| 10月 | フィールドワーク「見えない風景 / Walk with your eyes! |
| 会場 | 芦屋市内、当館講義室 |
| 講師 | 下道基行（美術家・写真家） |
| 対象 | 中学生以上 |
| 定員 | 15名 |
| 内容 | 路上観察と散歩とスナップを混ぜたような、でも「カメラ」を使わない写真的体験。言葉の地図を各参加者は制作し、最後にみんなで交換して散歩します。 |

| | |
|-----|----------------------------|
| 10月 | ワークショップ 「松谷さんとワークショップ」（仮称） |
| 会場 | 当館講義室 |
| 講師 | 松谷武判（美術家） |
| 対象 | どなたでも（予定） |
| 定員 | 80名 |
| 内容 | ワークショップ OR トーク OR 座談会の予定 |

| | |
|-----|---------------------------|
| 12月 | 銅版画ワークショップ〈本格的な銅版画に挑戦しよう〉 |
| 会場 | 銅版画工房アトリエ凹凸 |
| 講師 | 神野立生（銅版画家） |
| 対象 | 中学生以上 |
| 定員 | 20名 |
| 内容 | 銅版画でオリジナル版画作品を制作します。 |

| | |
|-----|------------------|
| 12月 | ワークショップフィールドショップ |
| 会場 | 当館講義室 |
| 講師 | 伊藤存（美術家） |
| 対象 | どなたでも |
| 定員 | 15名 |
| 内容 | ワークショップを予定 |

| | |
|----|-----------|
| 2月 | ワークショップ |
| 会場 | 講義室 体験学習室 |
| 講師 | 森本絵利（美術家） |
| 対象 | どなたでも（予定） |
| 定員 | 20名 |
| 内容 | 未定 |

| | |
|-----|-------------------------|
| 3月 | アート / ミュージック イベント |
| 会場 | 当館 全室 |
| 出演者 | Night cruising その他出演者未定 |
| 対象 | どなたでも |
| 定員 | 300名 |
| 内容 | コンサートを予定 |

その他、展覧会関連の事業につきましても、こどもからご年配の方まで、あるいは親子で、三世代で、ひとりでも、グループでも参加していただける講座やイベントを提供し、美術や歴史その他様々な文化活動に触れるきっかけづくりを積極的に行ってまいります。

芸術文化事業（文化講座系）

「びはくルーム」を中心に外部有識者や研究者を招聘して各種講演会や講座を実施し、芸術や歴史に対する理解を深めていただきます。また、展覧会に連動した講演会等を盛り込むなど、展覧会に対する理解を深めていただきます。

古文書講座 「くずし字は語る一ふるさと歴史講座」

当館学芸員による、古文書を解説する講座です。講座を通して、芦屋とその周辺地域の歴史をより深く学んでいただきます。初年度より、年間で数回実施されている講座です。回を増すごとに、リピーターも増え、人気の講座となっています。

本年度は古文書に記された崩し字を解説することで、新たに知ることのできた地域の歴史をご紹介します。文書を読み解くことで、芦屋の寺院を中心に解説します。

日本美術史講座（新講座）

日本美術のもつ魅力をご紹介します講座。古代から近代に至るまで日本美術の流れを解りやすく解説します。年間3回開催予定です。

ものづくり講座

「びはくルーム」のワークショップを中心に、絵や書などの自由な創作活動や、身近な材料を使った工作等のワークショップを開きます。

その他の子どものためのワークショップ

子どもを含めた幅広い来館者に来ていただけるよう、子ども向けの体験型講座などを実施します。また、幼稚園、小学校などに出向いた「鑑賞講座」などの出前講座も実施します。

*その他 自主事業

「ART MARKET あしや つくる場（旧アートバザール）」（5月2、3日、10月2日間の年2回）を実施します。今回装いも新たに実施。ビジュアル、イベント、食品販売の拡大により、若い世代、特にファミリー層を取り込むことで、大人も子どもも楽しめる場として生まれ変わります。

8. 個人情報保護

管理上知り得た利用者・関係者の個人情報を保護するために、「芦屋市立美術博物館 個人情報保護マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

- ① 法令で認められている場合を除き、個人情報の第三者提供、開示を禁止します。
- ② 個人情報を取得した書類、パソコン、CD、メモリなどの媒体を許可なく外部に持ち出すことを禁止します。
- ③ 紙媒体での個人情報は、必要最小限の保管とするとともに、鍵付きのロッカーに厳重に保管します。
- ④ ホームページ、メールなどへのウイルス侵入を防ぐためセキュリティソフトの整備、定期的なネットワークチェックを行います。
- ⑤ 個人情報の収集時には、必要に応じて職員が説明を行います。

- ⑥ 個人情報の取り扱い業務を外部に委託する場合は、委託先と協議の上覚書を取り交わすなど、厳重な管理を行います。
- ⑦ 個人情報保護に関する研修を年1回以上実施し、定期的に職員が個人情報の取り扱いについて徹底する機会を設けます。
- ⑧ 個人情報保護に関する内部監査を実施します。

9. 安全管理対策

利用者の安全を第一に考え、法定を順守した適切な内部管理を行うとともに、可能な限り危機が起こる前に予見し、危機の回避を図る方策と体制を整えます。「芦屋市立美術博物館危機管理マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

- ① 緊急時の状況を想定した防災訓練、防犯訓練を行い、不測の事態に備えます。
- ② 避難経路の確保、非常時の避難器具、消火器具の作動確認を定期的を実施します。
- ③ 芦屋市、消防、警察等、関係機関との連携を密にし、防犯情報等の共有に努めます。
- ④ 利用者、周辺施設と連携した訓練を行い、地域ぐるみの防災・防犯体制構築を図ります。
- ⑤ 危機管理マニュアルは職員の周知徹底を図るため週1回の読み合わせを行い、状況に併せた改訂を重ねていきます。

10. 研修

職員のスキルアップ、安全管理体制の徹底を図るため、定期的に研修を実施します。

| 研修名 | 対象 | 頻度 |
|-------------------------|-------|----------------|
| 新人研修 | 新規採用者 | 入職時 |
| 個人情報保護・セキュリティ研修 | 全職員 | 年1回以上 |
| 接遇・マナー研修 | 全職員 | 年1回以上 |
| 避難訓練・防災訓練 | 全職員 | 年2回以上 |
| 防犯訓練 | 全職員 | 年1回 |
| 職務研修 ※業務に応じたスキルアップなど | 各担当職員 | 職員申請に応じて責任者が承認 |

11. その他

①地域、市民との連携

地域、市民、利用者と協同し、共に美術博物館を創り上げていくために下記の取り組みを実施します。

i) アンケート調査の充実

アンケート調査を引き続き実施し、市民をはじめ、幅広い利用者により親しまれ、利用される美術博物館を目指します。

ii) 市民参加型事業の実施

2年目となります「びはくルーム」を充実させ、市民との協働を目指します。

当館の特徴である美術館と博物館のふたつの機能の融合も、検討していきます。

iii) ボランティアスタッフの育成

地域と共に運営する美術博物館として、より多くのボランティアスタッフが参加可能な企画を実施し、スタッフの育成に努めます。

iv) 学生の職業体験、学芸員実習などの受け入れ

市内中学生のトライやる・ウィークでの職業体験学習や、学芸員の实習受け入れなど美術博物館に興味、関心がある若い世代に体験の場を提供します。

②収蔵品台帳の整備

館の収蔵品の状況把握と適切な管理のため、収蔵品台帳の整備を行います。直近の棚卸時の写真・画像とテキストデータベースを照合し、その資料をもとにしてデータベースを随時更新していきます。

(別添資料)

- ・ 芦屋市立美術博物館 平成 27 年度 展覧会予定
- ・ 収支予算書

芦屋市立美術博物館
平成27年度 展覧会予定

* 展覧会名は変更する可能性があります。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------|----------------|--------------------------|----|------------------|----|----|
| 歴史資料展示室 | 芦屋の歴史と文化財 | 【阪神沿線の文化110年】 | | | | |
| 期間・日数 | 4/4(土)～5/10(日) | モダンアート・クロニカル | | | | |
| 第1展示室 | 第63回 芦屋市展 | アート、ファッション、建物から巡る | | | | |
| 第2展示室 | | 芦屋の芸術展 | | | | |
| 期間・日数 | 4/4(土)～5/10(日) | 5/23(土)～8/2(日) | | 8/12(水)～11/15(土) | | |
| | | 浮世絵恋物語 —浮世絵のなかの美男・美女— | | | | |

| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------|-----|---------------------|-----|-----------------|----|----|
| 歴史資料展示室 | | 昔の暮らし～江戸時代ってどんな時代？ | | | | |
| 期間・日数 | | 戦後のポスターレス/前衛陶芸の貌 | | | | |
| 第1展示室 | | 造形教育展 | | | | |
| 第2展示室 | | 2/20(土)～ 2/28(日) | | | | |
| 期間・日数 | | 8/12(水)～11/15(土) | | 11/28(土)～2/7(日) | | |
| | | 準備期間 | | | | |

収支予算書（平成27年度）

美術博物館
(単位:円)

| 項 目 | 予 算 額 |
|-----------------|-------|
| 収入支出の差引額(A)-(B) | 0 |

A:(収入内訳)

| 内 訳 科 目 | 項 目 | 予 算 額 |
|---------|---------|------------|
| | 指定管理料収入 | 73,469,000 |
| | 入館料収入 | 3,086,000 |
| | 施設利用収入 | 134,000 |
| | 駐車場収入 | 842,000 |
| | 自主事業等収入 | 946,000 |
| | 収入合計 | 78,477,000 |

B:(支出内訳)

| 内 訳 科 目 | 項 目 | 予 算 額 |
|---------|------|------------|
| | 人件費 | 24,806,000 |
| | 事務費 | 4,365,000 |
| | 管理費 | 10,757,000 |
| | 光熱水費 | 15,324,000 |
| | その他 | 1,029,000 |
| | 事業費 | 22,196,000 |
| | 支出合計 | 78,477,000 |

収支予算書(平成27年度)

(単位:円)

| | |
|-------------------|-----|
| | 予算額 |
| 収入支出の差引額(A) - (B) | 0 |

A:(収入内訳)

| | | |
|------------------|---------|------------|
| 内 訳 科 目 | 指定管理料収入 | 73,469,000 |
| | 入館料収入 | 3,086,000 |
| | 施設利用収入 | 134,000 |
| | 駐車場収入 | 842,000 |
| | 自主事業等収入 | 946,000 |
| 収入合計 | | 78,477,000 |

B:(支出内訳)

| | | |
|------------------|------|------------|
| 内 訳 科 目 | 人件費 | 24,806,000 |
| | 事務費 | 4,365,000 |
| | 管理費 | 10,757,000 |
| | 光熱水費 | 15,324,000 |
| | その他 | 1,029,000 |
| | 事業費 | 22,196,000 |
| 支出合計 | | 78,477,000 |